

久米池 (くめいけ)

位置図



諸元

貯水量	352	千m ³
満水面積	18.6	ha
受益面積	109	ha
堤高	5.0	m
堤長	640	m

久米池は、旧古高松村（高松市高松町・春日町・新田町）で最も大きいため池です。築造の由来については「久米池老朽工事竣工記念碑」の碑文に「寛永年間讚岐の藩主生駒高俊（第四代）が伊勢より西嶋八兵衛を聘して、早魃救済の為各地に溜池を築造せしめた其の一つであると伝えられている。」とあり、おおよそ四百年余にわたって地域の水田を潤してきました。久米池の名前については、池の南側に久米山があり古くには巨刹「久米寺」があったと伝えられていることから、寺の名前が由来と考えられており、昔から地域の人々に「久米さん」と呼ばれ親しまれています。

また、久米池は「新さぬき百景」に選ばれており、南側に佇めば池面に屋島が逆さに映り風情ある景色が望めます。更に、希少植物であるアサザが現存しており、6月～10月に黄色い可憐な花を咲かせ人々の目を楽しませています。平成14年度に県営ため池等整備事業 古高松南部地区の一環として遊歩道等の周辺環境整備が完了していますが、事業実施前の調査で判明したアサザについては、環境保全組織「アサザの里・久米池」を設立し保全に努めています。事業完了後も、周辺の小学校の環境教育と併せて保全活動を継続して行っており、眺望美しい久米池を後世に伝えるため、地域ぐるみで活動を行っています。



久米池南側から望む屋島



希少植物「アサザ」